

「急性心不全患者における入院中の食事摂取量に対する実態調査 及び関連する因子の検討」 について

1. 研究の対象

2021年4月1日～2022年10月31日に当院へ急性心不全増悪にて入院された患者さまが対象となります。

2. 研究目的・方法

【目的】2018年心不全患者における栄養評価・管理に関するステートメントが発表され心不全患者への栄養介入というものが重要視されてきています。その中で、少なくとも6か月間経過観察した心不全患者においては7.5%以上の体重減少が予後不良因子であり、体重が保たれていることが予後良好であるとの報告が示され、body mass index (BMI) が保たれているほうが予後良好であるという概念が導入され、欧州の心不全ガイドラインでは低体重について注意喚起がされるようになっていきます。ただ、心不全増悪患者は、入院中摂食不良状態に陥るものも少なくなく、入院中の食事摂取量低下が体重、ADL低下の要因の一つであると考えられます。しかし、入院中の急性心不全患者の摂食状況について明らかにした報告はされていません。そこで今回、急性心不全増悪患者の入院中食事摂取量の実態調査及び摂食不良となる要因を明らかにすることを目的としてこの研究を実施します。今回急性心不全患者の入院後の摂食量の実態調査及び関連因子を検証することにより、今後の栄養介入を行う上でも意義のあるものであると考えています。

【方法】対象となる患者さまの情報を電子カルテなどの診療情報から入手します。患者さまには通常通りの診療を受けていただくこととなります。本研究のために診察や検査、治療が増えたり変わることはなく、患者さまにさせていただくことはありません。

【研究期間】2022年3月16日から

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：診断名、年齢、性別、既往歴、入院回数、体重

患者背景（同居者、調理担当者、食事回数、喫煙、アルコール摂取など）

病歴、治療歴、検査結果（血液・生化学検査、心臓エコー所見）等

* 本研究では、試料（血液や組織など）は使用しません。

4. 外部への情報の提供

収集した情報は、報告書として取りまとめて書類として作成もしくは電子メディアに保存します。この報告書は、研究責任者の所属する枚方公済病院の栄養科へ提供します。個人を特定する情報は削除し、研究のための番号を付与して報告書を作成して管理します。個人と研究のための番号を結ぶ対応表は、当院で作成の上厳重に保管します。

5. 研究組織

【研究責任者】

国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院
循環器内科 部長 北口 勝司

【研究実務者】

国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院
栄養科 副主任 上田 公平

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さまもしくは患者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。

【連絡先】

研究責任者： (栄養科 ・ 職名)

実施医療機関名：国家公務員共済組合連合会 大手前病院

住所：〒540-0008 大阪府中央区大手前 1-5-34

電話番号：06-6941-0484 (代表) (平日：9：00～17：00)

(作成日：2022年3月1日)